

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	270600455		
法人名	社会福祉法人 十和田湖会		
事業所名	グループホーム きゃんぱす		
所在地 (電話番号)	〒034-0041 青森県十和田市相坂字小林76-5 (電話) 0176-20-1822		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成 19年 7月 3日	評価確定日	平成 19年 9月 8日

【情報提供票より】(平成 19年 6月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 16年 8月 10日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 8人, 非常勤 人, 常勤換算	8人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	3,000 円
敷金	有(円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 800 円		

(4) 利用者の概要(6月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性 3 名	女性 6 名
要介護1	0 名	要介護2	1 名
要介護3	6 名	要介護4	2 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢 平均	83.1 歳	最低	68 歳
		最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	十和田第一病院、泉山内科、藤坂歯科診療所
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

近隣に商店街や中学校がある住宅街に位置する開設3年目の施設で、地域行事へ参加するなど、地域交流が図られている。また、日常的に併設施設と連携し、医療機関の協力も得られている。
 「その人らしい暮らし」を大切にするという事業所の理念をつくりあげ、利用者が安心して生活できるよう職員の異動も最小限にするなど、細部にわたり配慮されている。他グループホームとの交流(職員、利用者)があり、良い点を取り入れながら様々な取り組みがなされている。職員は、その他にも施設見学に行くなどし、日々サービスの質の向上に向け検討している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	介護計画書がより具体的な内容となるような取り組みに期待したいという課題に対し、アセスメント方式をセンター方式に変え、その人らしく過ごせるよう意向の把握がなされ、職員間で検討して計画を作成している。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員の質の向上に向けて研修を取り組み、報告会を通じて日々安心した生活が送れるよう支援している。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は昨年度末から開催しているため回数はまだ少ないが、今後定期的な開催が予定されている。利用者やグループホームの状況が地域住民へ伝わり、家族の想いを理解してもらっている。今後の地域行事への取り組みの検討がされている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10,11)
	日々の暮らしぶりや金銭管理等の家族への報告を定期的に行なっている。面会時や電話連絡時の家族の些細な一言を「ありがたい意見」と受け止め、日常のケアに反映させている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域住民に向けた認知症の理解を深める為の活動に期待したい。

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域生活の継続の為に近隣住民に協力依頼をしており、「その人らしい暮らし……」という事業所独自の理念をつくりあげている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	常に理念を念頭におき、実践に向け話し合いながら日々のケアへの取り組みを行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	散歩や買い物外出時に近隣の方と挨拶を交わしたり、退居された方のご家族や隣接する通所サービスの利用者が気軽に立ち寄ってくれている。また、地域の学校行事やお祭り等に参加し、地域交流が図られている。運営推進会議により施設職員の関わりや利用者家族の気持ちが地域の方にも理解され始めている。現在キャラバンメイトなどの認知症普及活動はしていないが、家族からの相談にはその都度対応している。また、以前訪問していた介護相談員も継続して関わっている。		現在家族に対してのアドバイスは行われているが、今後は地域住民に向けた認知症の理解を深めるための活動に期待したい。

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを 期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>職員の意見を聴取して自己評価を作成している。前回の外部評価の結果を踏まえ、改善にむけた検討がなされ改善されている。</p>		
5	6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議では、利用者の状況や事業所としての取り組みに関する報告をすることで、地域住民の方に職員や家族の気持ちを理解していただいている。また、今後の行事等についての話し合いもされている。</p>		<p>今後は定期会議において外部評価の報告をし、メンバーから意見をいただくなど、モニター役になっていただけるよう期待したい。</p>
6	7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市担当者の運営推進会議への出席はなく、今後も予定がない。しかし、市担当者と地域包括支援センターへの事業所からの報告は折りに触れ行われている。</p>		
7	8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>管理者は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度についての必要性を十分に理解されており、今後必要と思われる利用者に支援できるよう近々研修を行う予定である。</p>		
8	9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>勉強会を実施し、事業所での周知徹底がなされている。職員が、夜勤帯に不安になった場合は、管理者が協力できる体制をとり防止に努めている。</p>		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを 期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行い、利用者や家族が納得した上で手続きを進めている。また、家族との信頼関係が築けるよう些細な疑問にも対応している。		
10	12	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時には日々の暮らしぶりの報告や金銭管理の報告などを行っている。遠方の家族の方には、手紙や電話で月1回以上は報告している。		
11	13	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や苦情の受付について説明しているが、実際には苦情箱への投書はないので、家族の些細な一言を「ありがたい意見」と受け止め、ミーティングで話し合い反映させている。		
12	16	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	顔馴染みの職員によるケアが継続できるよう、異動に関しては最小限に抑えている。異動する場合は利用者への影響を考慮し、変わらない環境づくりに心がけている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画をたてて勉強会(内部研修)等を実施し、出席者による報告会を開催している。職員は日々サービスの質の向上に向けて考えており、定期会議の中で報告がされ、資料は全職員が目を通している。		
14	18	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年に何回か他のグループホームの見学に行き交流を図っている。見学から得たものを報告し、様々取組まれている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気にならぬよう家族等と相談しながら工夫している	利用者の状況を家族から聞き、本人に合わせた面会方法を取りながら、徐々に見学、入居と段階を経て馴染めるよう取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	普段の会話の中から利用者から学ぶことが多くある。また、一緒に作業することで楽しい時間を過ごし、様々な話を聞きながら共に支えあう関係づくりに留意している。		


外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを 期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの暮らしぶりを把握した上で、日々の会話の中から希望、意向を聴くようにしている。意思疎通困難な方には、表情を観察しながら意向把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族から要望を聴き、日常の状況を職員から聴取して課題となる事を職員で話し合った上で、介護計画を作成している。		
19	34	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的なモニタリング、評価をして検討見直しをしている。状態が変化した方には、本人、家族、職員と検討した上で、新たな介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設の通所介護利用者との面会や交流をもったり、協力しながら行事を開催している。個々の希望に対応する為に、併設事業所の協力も得られている。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを 期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人のかかりつけ医や事業所の協力病院での治療を受けており、通院は家族の協力を得られている。家族同意の下で、緊急時には近くの協力病院で治療を受け、家族への説明も解り易くしていただいている。専門医療機関への転院が必要な場合は、速やかに手続きをしてもらい適切な医療が受けられている。		
22	44	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在重度な方がいないが、今後重度化した場合については、本人・家族の意向を確認した上で、主治医と相談していくこととしている。重度化しても当ホームでの生活を望まれている方には、できる限りのことをしたいという思いで検討されている。(入浴が困難になったら併設の特別浴を利用させてもらう。また、特養に申し込み、できる限りここでのケアを継続する)		終末期のあり方については今後の検討を期待したい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	47	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は個人情報保護法を理解し、取り扱いには十分気をつけている。また、誇りやプライバシーに配慮した言葉かけがされ、さりげない対応がなされている。		
24	49	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴拒否があれば足浴を促し、しつこく誘うことはない。少人数でゆったり本人のペースに合わせ、希望に副った生活ができるよう支援している。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを 期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>畑での収穫を楽しみ食材として利用することも多い。調理や盛り付け、片付け等も利用者と一緒にいき、同じものを食べながら食事を楽しんでいる。また、おやつ作りも共に行うことがある。</p>		
26	54	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>毎日入浴できるが、利用者の希望に応じて週2～3回程度の入浴となっている。利用者にあったタイミングで誘い、ゆっくりと入浴を楽しめるようにしている。午後入浴することで安眠につながるよう配慮がされ、現在の生活習慣に合わせている。</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>調理、食器洗い、掃除、野菜栽培等できる事をやってもらっているが、役割をこの人と決めずその時にできる方が行うようにしている。また、利用者の経験を活かせるような場面づくりをしたり、気分転換に買い物、図書館等への外出も行っている。</p>		
28	58	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>本人の希望に応じて日常品の買い物や散髪のための外出支援、天候の良い日には近隣の散歩を行っている。また、多少遠くても外出希望があれば、検討した上で支援している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
29	62	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束に関する勉強会を実施している。全職員が拘束による弊害に関して理解しており、拘束のないケアに努めている。</p>		
30	63	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>日中は鍵をかけずに見守りを徹底して好きなように過ごしていただいている。明け方職員が少ない時間帯に不穏になる利用者があるので、その時間帯は安全の為に施錠している。</p>		
31	68	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>災害時に安全に避難できるよう月1回訓練を実施している。消火方法等は消防署の協力の下で訓練している。また、近隣住民の消防士、看護師にも災害時の協力依頼をしている。</p>		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>栄養士の協力が得られており、バランスの取れた食事の提供がなされている。食事・水分摂取量を毎日チェックし、少ない方は看護師に相談している。状況に応じて主治医に相談、高カロリー食を処方してもらい摂取できるよう支援している。</p>		
33	75	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>感染症マニュアルを作成し周知徹底に努めている。研修会参加後勉強会開催、特養看護師からの指導も受け、各種感染症対策が図られている。</p>		

外部 評価 値	自己 評価 値	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを 期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p>					
<p>(1) 居心地のよい環境づくり</p>					
34	78	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>部屋から出ると共用空間となっており、季節感が感じられる装飾品が飾られている。生け花や装飾品は共同で作成している。また、臭いに対しては、竹炭を活用する等配慮がされている。</p>		
35	80	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>食器類の他に商売で使用していた物や趣味で作成した物、思い出のある物を持ち込み和める空間づくりをしている。</p>		

 は、重点項目。